

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【公表番号】特表2003-507044(P2003-507044A)
 【公表日】平成15年2月25日(2003.2.25)
 【出願番号】特願2001-517862(P2001-517862)
 【国際特許分類】
 A 0 1 H 1/02 (2006.01)
 【F I】
 A 0 1 H 1/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年5月11日(2011.5.11)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも一つのリコペルシコン・エスカレンタム植物をリコペルシコン・ヒルスツム(L A 1 7 7 7)種と交配させハイブリッド種を産生する段階と、
ハイブリッド種の第一世代を回収する段階と、
 そのハイブリッド種の第一世代から植物を生長させる段階と、
 最新ハイブリッド世代の植物を授粉させる段階と、
 その最新ハイブリッド世代により産生された種を回収する段階と、
 最新ハイブリッド世代の種から植物を生長させる段階と、
 通常成熟時期を過ぎても、植物をつるに残したままにする段階と、
熟した果実の延長された保存期間と果実表皮のしわにより示される、果実中水分の減少したハイブリッド植物を選別する段階と

からなり、更に

その後代が果実中水分量の減少を示すハイブリッド種由来の植物を、リコペルシコン植物と交配させる段階と、

その交配した植物を生長させる段階と、

非交配リコペルシコンからの果実と比較して乾燥重量%が増加したトマト果実を有する植物を選択する段階とからなる

果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項2】 前記種を授粉させる段階と、前記種を回収する段階と、前記植物を生長させる段階が、少なくとも一度は繰り返される請求項1記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項3】 前記授粉段階が自己授粉を含む請求項1記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項4】 前記授粉段階が、リコペルシコン・エスカレンタム植物との戻し交配を含む請求項1記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項5】 前記交配段階と選択段階が、少なくとも一度は繰り返される請求項1記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項6】 前記交配が有性交配を含む請求項1記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項7】 前記交配が無性交配を含む請求項1記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項 8】 前記無性交配が、体細胞交雑を含む請求項 7 記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項 9】 熟した果実の延長された保存期間と果実表皮のしわにより示される果実の水分が減少したトマト果実を有する植物を繁殖させる段階から更になる請求項 1 記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項 10】 前記繁殖段階が、栄養繁殖段階を含む請求項 9 記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項 11】 前記繁殖段階が、種による繁殖段階を含む請求項 9 記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項 12】 その後代が果実中水分量の減少を示すハイブリッド種由来の植物を、リコペルシコン植物と交配させる段階と、その交配した植物を生長させる段階と、乾燥の兆候を示す前に熟したトマト果実を収穫する段階と、その果実を植物から取り除いた後に乾燥する段階とから更になる請求項 1 記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法。

【請求項 13】 野生のリコペルシコン・ヒルスツム (LA 1777) 種植物からの遺伝子移入を伴うリコペルシコン・エスクレンツムの遺伝子を有し、トマト植物に付いたまま自然乾燥する能力を特徴とし、概して細菌性腐敗を伴わないその自然乾燥が、通常の熟した状態での収穫段階の後に植物に付いた状態のままにされたトマト果実表皮のしわにより定められるトマト果実。

【請求項 14】 野生のリコペルシコン・ヒルスツム (LA 1777) 種植物からの遺伝子移入を伴うリコペルシコン・エスクレンツムの遺伝子を有し、表皮のしわを得るように果実を乾燥できる未処理の表皮を特徴とし、その乾燥が、概して細菌性腐敗を伴わないトマト果実。

【請求項 15】 トマト植物に付いたまま自然乾燥する能力を特徴とし、概して細菌性腐敗を伴わないその自然乾燥が、通常の熟した状態での収穫段階の後に植物に付いた状態のままにされたトマト果実表皮のしわにより定められる請求項 1 から 12 のいずれか記載の果実中水分の減少したトマトを産生するトマト植物を育てる方法により育つトマト果実。

【請求項 16】 請求項 15 記載のトマト植物の種。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

トマト植物を飼育する方法は、第 1 のハイブリッド種を産生する野生のリコペルシコン種植物を有する少なくとも一つのリコペルシコン・エスクレンツム植物を含む。

リコペルシコン・エスクレンツム植物の果実はそれから熟することができ、ハイブリッド型 (F1) 種が回収される。

回収された F1 種は、それから植えられ、F1 植物が育てられた後、自己授粉が可能となる。

自己増殖は少なくとも一つの追加の世代のために続けられてもよく、または、F1 植物はリコペルシコン・エスクレンツム親植物 (L. esculentum parental plant) へ交配することができる。

自己交配及び戻し交配された世代からの果実は、果実色の変化によって定まる通常の成熟時期を過ぎても、つるに付いた状態であることが可能であり、天然乾燥の存在が選別される (be screened)。

果実が通常の赤い熟した収穫段階の後にも、つるに残ることができる際、天然乾燥又は水分の減少量は果実表皮にしわを生成することによって示される。